

漱石山房の秋

芥川龍之介

青空文庫

夜寒よさむの細い往來わうらいを爪先つまさき上あがりに上あがつて行くと、古ぼけた板屋根の門の前へ出る。門には電灯がともつてゐるが、柱に掲げた標札の如きは、殆ど有無ほどんさへも判然しない。門をくぐると砂利じやりが敷いてあつて、その又砂利の上には庭樹の落葉が紛々ふんぶんとして乱れてゐる。砂利と落葉とを踏んで玄關へ来ると、これも亦古またぼけた格子戸かうしどの外ほかは、壁と云はず壁板したみと云はず、悉く蔦ことじに蔽はれてゐる。だから案内を請はうと思つたら、まづその蔦の枯葉をがさつかせて、呼鈴ベルの鈕ボタンを探さねばならぬ。それでもやつと呼鈴ベルを押すと、明りのさしてゐる障子が開いて、束髪そくはつに結つた女中ひとが一人、すぐに格子戸の掛け金を外はづしてくる。玄關の東側には廊下があり、その廊下の欄干らんかんの外には、冬を知らない木賊とくその色が一面に庭を埋めてゐるが、客間の硝子戸がらすを洩れる電灯の光も、今は其処そこまでは照らしてゐない。いや、その光がさしてゐるだけに、向うの軒先のきさきに吊した風鐸ふうたくの影も、反かへつて濃くなつた宵闇よひやみの中に隠されてゐる位である。

硝子戸から客間を覗のぞいて見ると、雨漏りの痕と鼠の食つた穴とが、白い紙張りの天てんじよ井うに斑々はんばんとまだ残つてゐる。が、十畳の座敷には、赤い五羽鶴ごはづるの毯たんが敷いてあるから、畳の古びだけは分明ぶんみやんではない。この客間の西側（玄關寄り）には、更紗さらさの唐紙からかみが二

枚あつて、その一枚の上に古色こしよくを帯びた壁懸けが一つ下つてゐる。麻の地に黄色に百合ゆりのやうな花を繡ぬひとつたのは、津田青楓氏つだせいふうか何かの図案らしい。この唐紙かべぎの左右の壁際かべぎには、余り上等でない硝子戸の本箱があつて、その何段かの棚の上にはぎつしり洋書が詰まつてゐる。それから廊下に接した南側には、殺風景さつぷうけいな鉄格子てつこうしの西洋窓の前に大きな紫檀したんの机を据ゑて、その上に硯すずりや筆立てが、紙絹しけんの類や法帖ほふてふと一しよに、存外行儀よく並べてある。その窓を刺した南側の壁と向うの北側の壁とには、殆ど軸の挂かかつてゐなかつた事がない。蔵沢ざうたくの墨竹ぼくちくが黄興くわうこうの「文章千古事ぶんしやうせんこのこと」と挨拶あいさつをしてゐる事もある。木庵もくあんの「花開万国春はなひらくばんこくのはる」が呉昌蹟ごしやうせきの木蓮もくれんと鉢合はちあわせをしてゐる事もある。が、客間を飾つてゐる書画は独りこれらの軸ばかりではない。西側の壁には安井曾太郎やすゐそうたらうの油絵の風景画が、東側の壁には斎藤与里氏さいとうよりの油絵の艸花くさばなが、さうして又北側の壁には明めい月げん禪師じの無絃琴むげんきんと云ふ艸書さうしよの横物よこものが、いづれも額がくになつて挂かかつてゐる。その額の下や軸の前に、或は銅瓶どうへいに梅もどきが、或は青磁せいじに菊の花がその時々で投げこんでゐるのは、無論奥さんの風流に相違あるまい。

もし先客がなかつたなら、この客間を覗いた眼を更に次の間まへ転じなければならぬ。次の間と云つても客間の東側には、唐紙からかみも何もないのだから、実は一つ座敷も同じ事であ

る。唯此処は板敷で、中央に拵げた方一間あまりの古絨毯の外には、一枚の畳も敷いてはない。さうして東と北の二方の壁には、新古和漢洋の書物を詰めた、無暗に大きな書棚が並んでゐる。書物はそれでも詰まり切らないのか、ぢかに下の床の上へ積んである数も少くない。その上やはり南側の窓際に置いた机の上にも、軸だの法帖だの画集だのが雑然と堆く盛り上つてゐる。だから中央に敷いた古絨毯も、四方に並べてある書物のおかげで、派手なるべき赤い色が僅ばかりしか見えてゐない。しかもそのまん中には小さい紫檀の机があつて、その又机の向うには座蒲団が二枚重ねてある。銅印が一つ、石印が二つ三つ、ペン皿に代へた竹の茶筴、その中の万年筆、それから玉の文鎮を置いた一綴りの原稿用紙——机の上にはこの外に老眼鏡が載せてある事も珍しくない。その真上には電灯が煌々と光を放つてゐる。傍には瀬戸火鉢の鉄瓶が虫の啼くやうに沸つてゐる。もし夜寒が甚しければ、少し離れた瓦斯煖炉にも赤々と火が動いてゐる。さうしてその机の後、二枚重ねた座蒲団の上には、何処か獅子を想はせる、脊の低い半白の老人が、或は手紙の筆を走らせたり、或は唐本の詩集を翻したりしながら、端然と独り坐つてゐる。……

漱石山房の秋の夜は、かう云ふ蕭條たるものであつた。

青空文庫情報

底本：「芥川龍之介作品集第三卷」昭和出版社

1965（昭和40）年12月20日発行

※底本の「軒光《のきさき》」「殆《ほと》ど」「翻《ひるが》したり」はそれぞれ、「軒先《のきさき》」「殆《ほとん》ど」「翻《ひるがえ》したり」にあらためました。

入力：j.ujiyama

校正：かとうかおり

1999年1月26日公開

2003年10月7日修正

青空文庫作成ファイル：

このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫（<http://www.aozora.gr.jp/>）で作られました。入力、校正、制作にあたったのは、ボランティアの皆さんです。

漱石山房の秋

芥川龍之介

2020年 7月17日 初版

奥 付

発行 青空文庫

URL <http://www.aozora.gr.jp/>

E-Mail info@aozora.gr.jp

作成 青空ヘルパー 赤鬼@BFSU

URL <http://aozora.xisang.top/>

BiliBili <https://space.bilibili.com/10060483>

Special Thanks

青空文庫 威沙

青空文庫を全デバイスで楽しめる青空ヘルパー <http://aohelp.club/>
※この本の作成には文庫本作成ツール『威沙』を使用しています。
<http://tokimi.sylphid.jp/>